

# 地方都市こそ、 次世代自動車の発信源

自動車ジャーナリスト  
川端由美

# Agenda

- ロンドンで見た、オリンピックによる次世代車の普及
- パリ、ベルリン、ロンドン、アムステルダム
  - 首都におけるEV・PHVの普及とインフラ構築
- イギリス・ノースイースト、イタリア・フィレンツェ
  - 地方都市におけるEV・PHVの普及とインフラ構築
- 地方だからこそできるEV・PHV取り組みの一例

# ロンドンに見る オリンピックでEV・PHVが普及

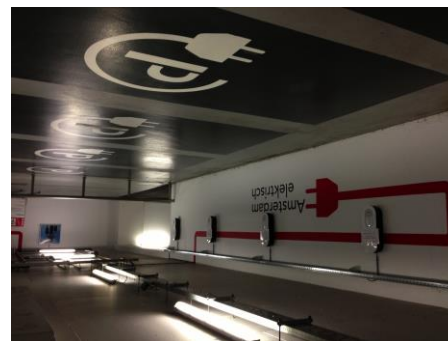
- オリンピック講演の敷地内で使用されるエネルギーの75%は、クリーン電力
- GEがEV/PHV充電器を追加設置、クアルコム社が非接触充電器を試験利用→2015年までに2万5000基目標
- レンタル自転車、ロンドンバスのHV化→ロンドン郊外の都市にてEVバスの実証試験がスタート



# 首都におけるEV・PHVの普及とインフラ構築



RWE×ダイムラー、バッテンホール×BMWなど、インフラ整備とEV実証試験を協業で実施



オランダ国内に4000基。50kmごとに1台の計算。なかでも、アムステルダムには400基以上が集中する



パリ市内にEVシェアのオートリブが3000台以上、充電施設を示すサインを目立つところに設置



市内に入る渋滞税が免除される。2015年までに2万5000基目標

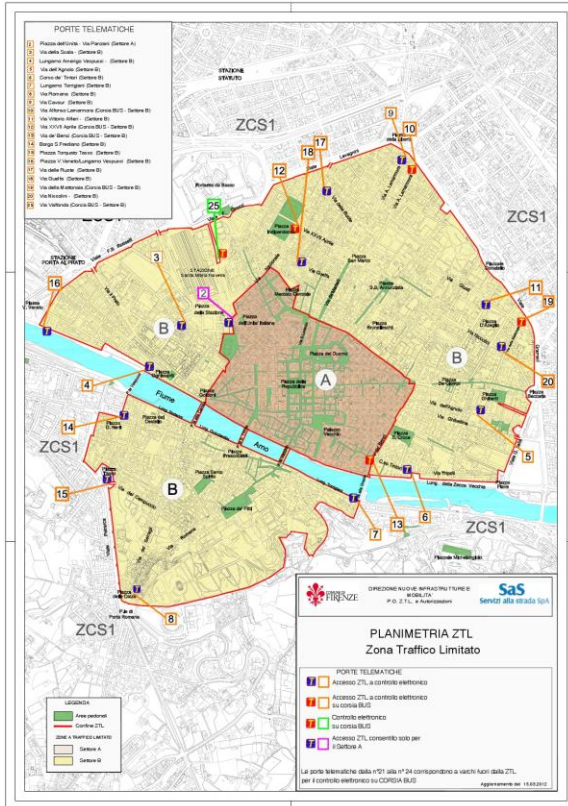
# 地方都市におけるEV・PHVの普及とインフラ構築

## ■ イギリス・ノースイースト



Charge Your Carプロジェクトとして、英国北東部にて工業都市である特徴を活かしてEV充電インフラを構築。2013年前に1300基を設置済み。EV所有者は5km以内に公共の充電器にアクセスでき、40kmごとに充電器が備わる計算。英国における「EV首都」を自称する

# 地方都市におけるEV・PHVの普及とインフラ構築



2010年にフィレンツェ・アルノ川北岸の旧市街地区が特別の許可車以外は車両進入禁止した。39歳の若さでイタリア首相に就任したマッテオ・レンツィ氏が市長・県知事時代にEV政策を後押し、インフラ整備を進めた。

# 屋久島にて、 BMWがEV試乗会を開催



離島の燃料調達コストが高いこともあり、「屋久島CO2フリーの島作り」を推進。居住者に加えて、観光施設への充電器設置を行って観光客の利用を推進。観光客の多くが環境志向が高いこともあって、イメージ向上につながる。2014年、BMWが初のEVを日本導入するにあたって、自然エネルギーによる充電をセリングポイントにCO2フリー走行の証明書を出したことがメディアで話題になった。



川端由美 (かわばた ゆみ)

1971年生まれ。工学修士。住友電工にてエンジニアとして務めた後、1997年に二玄社『NAVI』、姉妹誌『カーグラフィック』の編集部員に転身。現在はフリーランスの自動車ジャーナリストとして、自動車の新技術と環境問題を中心に取材活動を行なう。エンジニア、女性、自動車ジャーナリストといったハイブリッドな視点でレポートを展開する。海外のモーターショーや学会を積極的に取材し、アジアや北米にも寄稿する国際派でもある。日本カー・オブ・ザ・イヤー選考委員、ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー グリーンカー・エキスパート。

国土交通省・独法評価委員会委員、環境省、内閣官房、警察庁の有識者委員などを歴任。

[kakinotane@s8.dion.ne.jp](mailto:kakinotane@s8.dion.ne.jp)